



放課後は母の職場へ

県内の介護施設が、学校帰りの職員の子どもを職場で見守る取り組みを始めた。子どもは母親のそばで宿題を終え、利用者のお年寄りたちと過ごし、母親と一緒に帰宅する。親

こも女
Women's
CHOICE

介護施設で「学童保育」

にも子にも利用者にもうれしい。施設内学童保育は、人材難が深刻な業界で職員の確保にも一役買えそうだ。「ただいま」。勢いよく扉を開けて駆け込んだ児童に、職員や利用者が「お帰り」と笑顔を向けた。静岡市葵区のグループホーム「ケアアオリティ和

音（わおん）」では2016年9月、近くに住む佐藤鈴代さん（42）を採用して以来、三男康介君（8）の放課後を見守っている。岩崎敏子ホーム長は「お母さんがここにいらると安心してもらうために始めたが、利用者が見守るなり助かっている」と話す。小学

校と佐藤さんの自宅とも施設に近いため実現できた。「若い女性に働いてほしくても、子どもの手が離れないと就職できない人が多い。距離の条件が合えば、今後も児童の帰宅を歓迎する」という。佐藤さんは「そばにいますので安心。転勤族で近所付き合いが少ないうので、息子にもいい経験になる」と喜ぶ。康介君も「ここは断然楽しい。お母さんの働く姿もかっこいい」とはにかんだ。

富士市の特別養護老人ホーム「すの杜もり」は同年4月から、3人の職員の子と孫6人を受け入れている。きっかけは1人の女性職員の声だった。小学生の長女と長男が別々の学童保育に通わなければならぬなり、「勤務後に2力所に迎えに行くのは大変。仕事を続けられないかも」と不安がった。

「家庭との兼ね合いで質の高いベテラン職員が辞めてしまうのは大きな損失」と人事担当の大塚渉爾さん。保育士資格と小学校の教員免許を持つ女性1人を新たに採用し、施設隣の二戸建ての空き家を学童スペースにした。

県介護福祉士会の及川ゆりこ会長は「施設内学童保育は珍しいのではないか」とした上で、「小学生の放課後の過ごし方に悩む職員は多い。取り組みが広がると、女性が働きやすい環境につながる」と期待を込めた。

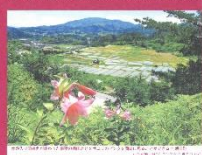
（伊豆田有希）

親子も利用者も明るく

静岡新聞・夕刊
2017年5月23日（火）

切抜き速報 福祉ニュース 高齢福祉編

全国85紙の新聞記事から
福祉の「今」を読み解く



PICKUP TOPICS

- ▶ 従業者を防ぐ
- ▶ 高齢者のがん治療
- ▶ 介護職のキャリアアップ
- ▶ 男性介護者への支援



Kirinuki Sokuhou



口腔ケア・介護食の工夫